みえ県議会新聞

令和元年度（2019年度）NO.2

みえ県議会新聞は年に2回発行しています。
No. 2では、令和元年度の議会の取り組みについて、次のとおり各紙面でお伝えします。
（令和2年3月19日までの状況です）

1 ページ

みえ現場de県議会を開催

2 ページ

新型コロナウイルスから県民の命を守るため、議会も全力で対応中! ほか

3 ページ

「みえ県民力ビジョン・第三次行動計画」策定における議会の役割

4 ページ

みえ県議会出前講座を実施　ほか

みえ現場de県議会を開催

三重県議会では、多様な意見を聞き、県議会での議論に反映するため、テーマを設定し、県民の皆さんから直接意見を聞く「みえ現場de県議会」を平成22年度から開催しています。
令和元年度は2つのテーマで開催しました。

第2回　テーマ「若者の県内定着の促進」

第2回は、三重県議会初の試みとして、テーマ等の募集を行い決定した「若者の県内定着の促進」をテーマに、令和2年2月14日、三重大学を会場に開催しました。
当日は、高等学校卒業後や高等教育機関卒業後の県内定着に向けた取り組みについて、意見交換を行いました。

参加者
- ○若者の県内定着の促進に取り組む関係者の方　5人
- ○一般公募の方〔若者の県内定着に関心のある15～29歳の方〕　5人
- ○県議会議員〔議長、広聴広報会議座長（副議長）、広聴広報会議委員、戦略企画雇用経済常任委員長、教育警察常任委員長〕　9人

三重創生ファンタジスタクラブ
部長　岡田 まりさん

学生が主体となって地方創生に取り組む三重創生ファンタジスタクラブの活動を通して、三重県の魅力を学んだ。今度は自分が他の学生たちに伝えていきたい。

三重大学 地域人材教育開発機構
特任講師　織田 拓さん

県内での就職を希望する人はいっぱいいると思う。そういう人がきちんと留まれるような状況をオール三重でつくり、どこの地域でも幸せな人生を歩めるということが大事だと思う。

株式会社 光機械製作所
品質保証室 室長　米川 嘉英さん

地方創生は課題が明確で、地方に若い人が行くだけでも喜ばれる。そこで地域の人たちとのコミュニティが生まれ、感謝されることが本人の成功体験になれば、その地域への定着に繋がるのではないか。

三重県内の人にどうやって会社を知ってもらうか、ということが企業としては一番大事。地元の学校と協力するなど、地域に喜んでもらえることをすることで、雇用確保のきっかけになり、またそこからの広がりもあると思う。

工業高校では、自分たちのアイデアが「物」に変わり、それが売れるという成功体験をすることで、「自分たちでも何かできるんだ」という意識に変わり、その時に初めて自分たちの将来を本気で考えだす。

桑名工業高等学校
教諭　岡 優志さん
エイベックス株式会社
代表取締役社長　加藤 丈典さん

三重大学 学生
北森 輝さん

株式会社 Dream3.0
代表　黄山 昇さん

三重大学 学生
村木 美布さん

三重大学 学生
大塚 理香子さん

三重短期大学 学生
黒木 亮佑さん

企業と若いうちから繋がったり、いろんな人と出会ったりする機会はすごく大事だと思う。いろいろな業種や、さまざまな世代の価値観、考え方を知っていくことで、地元に対する課題や、解決の幅は広がっていくのではないか。

三重で生まれ育ったが、中学校、高校の頃からずっと都会への憧れはある。交通の便や、人と出会う確率も高くなることを考えると、新しいことをやるには都会にいたほうがいいんじゃないかと感じてしまう。

都会から三重に来て、三重創生ファンタジスタクラブに入ったが、すごく刺激的なことが多く、都会と三重の違いを肌で感じている。自然の中で遊ぶなど、三重には三重の遊び方があるんだということを教えてもらった。

第1回　テーマ「水産業の振興」

第1回は令和元年11月7日に、尾鷲市早田（はいだ）コミュニティセンターで開催しました。
当日は、早田漁港の視察を行った後、参加者の方々それぞれの立場から見た水産業の現状や今後の課題等について、ご意見をいただきました。

参加者
- ○早田漁師塾の関係者の方　5人
- ○一般公募の方　3人
- ○県議会議員〔議長、広聴広報会議座長（副議長）、広聴広報会議委員、環境生活農林水産常任委員長〕　8人

現場視察

当日は、まず早田漁港にて、早田地区の漁業や普段の漁の様子などについて説明を受けました。また、大敷（おおしき）の仕組みについて、模型をもとに説明いただきました。

意見交換

株式会社 早田大敷
代表取締役　岩本 芳和さん

漁師塾というところであれば、自分でも足を踏み入れられるのではないかと思って応募した。
また、ホームページにはいいことだけでなく、不便なことや、先輩からの言葉など、聞きたいことが全部書かれていて、とても参考になった。

SNSを活用したPRが必要ではないか。

これからは資源管理が大切になってくる。
早田大敷では、若い漁師達も資源管理の大切さを分かっており、今年もブリの稚魚を船上で分けて逃がしたりしていて、その様子をFacebookなどでも発信している。こういった取り組みがもっと広がっていけばいいと思う。

株式会社 早田大敷
漁撈長　中井 恭佑さん

株式会社 早田大敷
浦 和弘さん

尾鷲市水産農林課
竹内 大介さん

魚の価値をあげていかないと、最終的に魚を獲る人の生活も成り立っていかないし、加工する人の生活も成り立っていかない。加工する人も高齢化が進み、魚をさばける人が今後どんどん減っていくのではないかという危機感がある。魚に触れる文化を自分たちのビジネスを通して守っていきたい。

早田町で獲れた魚を取り扱う仕事をしているが、休漁期の会社運営が課題になっている。

株式会社 早田大敷
吉田 元治さん

尾鷲市地域おこし協力隊
大山 道臣さん

株式会社 ディーグリーン
mogcook（モグック）事業部
立花 圭さん

ふるさと三重コンサルティング
代表　廣田 耕一さん

町の中で魚を加工したい、町の女性が作ったお弁当を町の外でも販売したいと思っても、町には小さな軽トラックの保冷車しかなく、設備の面で保健所の許可がおりない。
また、鮮魚を都市部で販売する際、魚をさばいてほしいという需要が多くあるが、移動販売だと魚をさばく場所の免許がなかなかとれない。

※意見交換の中から、主な意見を抜粋して掲載しています。（写真の配置は発言者を示すものではありません。）なお、当日の概要は、三重県議会ホームページでご覧いただけます。

参加者の皆さんからいただいたご意見は、関係常任委員会で共有し議論するなど、県政への反映につながるよう取り組んでいきます。